

長崎いのちの電話だより



50号
社会福祉法人長崎いのちの電話

2017(平成29)年

12月10日

〈相談電話〉 **095-842-4343** 年中無休
(第1・第3土曜日は9:00～翌9:00) 9:00～22:00
全国一斉フリーダイヤル(毎月10日 8時～翌8時) 0120-783-556
自殺予防 いのちの電話

(発行人)中根 允文 (編集)広報委員会
〒852-8799 日本郵便長崎北支店 私書箱45号
(事務局)電話 095-843-4410
FAX 095-844-3600
ホームページ
<http://ngsk4343.sakura.ne.jp>

祝 叙 勲

● 瑞宝中綬章

中 根 允 文 理事長

● 旭日双光章

福 島 建 一 前副理事長

平成29年秋の叙勲で、当会の中根允文理事長が、教育研究功勞により「瑞宝中綬章」受章の榮に浴されました。また、前副理事長の福島建一氏が保健衛生功勞により旭日双光章を受章されました。

お二人には心からのお祝いを申し上げます。

この叙勲を記念し、中根理事長には「平成29年秋の叙勲を受けて～改めての自己紹介～」と題し、ご自身の半生を振り返った一文を寄稿いただきました。

私は、昭和13(1938)年1月に朝鮮全羅南道羅州郡榮山浦邑町(当時、戸籍謄本から)に生まれ、終戦で昭和20年10月末に父母姉弟と共に引揚げ、元々の郷里である熊本県人吉市で生活し始めました。学校教師であった父の転勤に伴って同地域周辺を頻りに転居し、県立人吉高校卒業後、九州大学理学部に進学、教養課程修了後、長崎大学医学部に転入、昭和38(1963)年3月に同大学医学部を卒業しました。その後、日赤長崎原爆病院で実地修練し、長崎大学大学院(内科系精神神経学専攻)に入学、昭和43年に修了して医学博士の学位を授与されました。同年8月に長崎大学医学部附属病院助手(精神神経科)、翌年4月には附属病院講師となり、昭和49年から約1年間、デンマーク政府奨学生としてオーフス大学疫学的精神医学研究所に留学、昭和56年4月には長崎大学助教授を経て、昭和59(1984)年4月に長崎大学医学部精神神経学教授に、平成14年4月には長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻病態解析・制御学講座精神病態制御学分野教授に就任しました。平成15(2003)年3月に退官するまで精神医学の教育・研究に努め、平成15年5月に長崎大学名誉教授となりました。同年4月から5年間、長崎国際大学大学院教授として勤務しました。その後は、平成20年4月より医療法人五省会出島診療所(当初は出島町で、現在は万才町で)所長として地域精神医療に関わり、今日に至っています。また、平成23年3月から5年間は公益財団法人長崎原子爆弾被爆者対策協議会に理事長としても勤務しました。

長崎いのちの電話との関わりは、平成5(1993)年

11月に長崎県自治会館で159名の出席のもと開催された発起人総会に、当時純心大学教授をしておられた優れた先輩の一人で会長として選出された川崎ナヲミ先生(元長崎大学医学部精神神経科学講師)を支援する形で協力し始めたことによります。川崎先生には、多くのことで指導していただいた思い出があります。中でも重大な作業には、長崎中央児童相談所の嘱託医を引き継いだということがあり、これは後々わたしの主要研究分野の一つ児童精神医学研究にて展開されました。

いのちの電話では、スーパーバイザーや各種講座の講師をしているうちに、副理事長の任を引き受けたあと、平成24年秋から第4代理事長となって5年余りになります。

期待された本職の分野で

は、精神科医療を実践しながら、精神医学研究にあつては、まず大学の研究室に社会精神医学・疫学的精神医学の研究グループを確立させて、同領域の緻密な研究計画に基づく地域研究を実施し始めました。長崎県内の島嶼における精神障害患者の実態を明らかにする中で、精神疾患(統合失調症やうつ病など)の症状発現に心理社会的・文化的・宗教的要因が関与していることを明示し、それらを考慮した治療と社会参加への支援の必要性を指摘しました。また、長崎在住の統合失調症例に係る登録を確立して、海外からは既に一部報告されていますが、国内で冬季出生者に多発の傾向を証明し、彼らの発病要因に関する生物学的研究の基盤となることをめざしたりしました。

一方、気分障害(うつ病)についても、抑うつ症状の内容には社会的要因が関与し、心因性原因が示唆さ

平成29年秋の叙勲を受けて

～改めての自己紹介～



中 根 允 文
(なかね よしづみ)

上野誠先生を講師に迎え 開局23周年記念 公開講演会を開催しました

『長崎いのちの電話 1994年11月5日・開局』を記念し、毎年11月開催が恒例となった「開局記念公開講演会」ですが、23周年の今年は『万葉集 歌えば命の泉わく～万葉集は言葉の文化財～』と題し、奈良大学文学部教授の上野誠先生を講師に迎え、去る11月11日に長崎市のチトセピアホールで開催されました。

講演会の中で、上野先生から秋の叙勲で受章された中根允文理事長と福島建一前副理事長にお祝いの花束贈呈がなされるといった嬉しいハプニング（写真：左が上野先生 中央に中根理事長 右・福島前副理事長）もありましたが、ユーモア溢れる中に万葉集の『真髓』が語られ、聴講者約150名を魅了する講演でした。

なお、上野先生からは、「時間が足りず、いのちの電話の関係者の皆さんにお伝えしなかったことが語り切れなかったから。」として、『補充的追加講演抄録』の形式で特別寄稿を頂戴しました。3面・4面でご紹介します。

(1面から続く)

れる事例で自殺企図が多いこと、長期転帰で自殺既遂率が約10%に昇り、慢性的に抑うつ状態が継続する事例もあり、経過を楽観し過ぎないようにと警告しました。更に、近年精神科以外の一般診療科を受診する患者の中に精神的問題を抱えている場合が少なくないこと、即ち内科外来を受診する新患の15%近くが何らかの精神疾患（そのうち約6%はうつ病）を有していたこと、さらに彼らについて正確な診断が付されていた者は20%に達していなかったことなどを明らかにしました。こうした知見は、近年の医療保険・医療経済にとって大きな問題で、不適切な診療によって医療費は増加し、患者・家族にとっての経済的且つ社会生活上の負担をも増悪させてしまっているというデータでした。この結果を考慮して、厚生労働省は臨床研修の義務化の中で精神科研修を取り込むことになり、医学教育の中でも精神医学がコア・カリキュラムの一つとして認識されることとなりました。

こうした知見の幾つかは国際的にも認知されることとなり、デンマーク留学から帰国後は、長崎大学精神神経科が世界保健機関（WHO）の研究協力センターとして認定され、数多くの国際共同研究に参加してきました。長崎大学の現役教授時代は同センター長として、諸外国の精神医学者と共に精神疾患に関する数多くの国際比較共同研究を展開しながら、国際学会会員・役員としての役割も果たしてきました。長崎大学を退官後は、平成18年までWHO精神保健・物質乱用予防部及同西太平洋事務局顧問として、WHO本部（ジュ

公開講演会で初お披露目 ～相談員手作り～ 相談活動紹介DVD 完成

公開講演に先立ち、長崎いのちの電話の活動紹介DVDが会場に流されました。

これは、現役の相談員らが一人でも多くの仲間を募りたい、と電話相談活動の合間を縫って完成にこぎ着けたもので、この講演会が初のお披露目となりました。

HPでも公開しております。是非ご覧下さい。

《永年活動表彰》

また、講演会後には同会場で、長崎いのちの電話相談ボランティアとしての活動歴20年・15年・10年のそれぞれ節目を迎えた相談員さんに中根理事長から感謝状・表彰状が贈られました。



活動歴20年 3名
（うち欠席者1名には後日）
同じく15年 4名
同じく10年 3名
（うち欠席者2名には後日）

ネーブ）および西太平洋事務局（マニラ）を往復しながら、精神医学研究を通して国際交流・国際協調に努めました。

長崎県・市における地域精神保健に関しては、長崎県精神保健福祉審議会長、長崎県精神保健医療審査会長、長崎県精神保健福祉協会会長、長崎県身体拘束ゼロ作戦推進会議議長、長崎県社会福祉審議会委員、長崎県立病院病院運営検討懇談会委員、長崎ヒバクシャ医療国際協力会理事（同運営委員長）、長崎被爆地域（健康診断特例区域）に係る事業検討会委員長などを勤め、県下の精神障害者医療および原爆被爆者医療そして福祉の向上に努め、平成15年に長崎市政功労者として表彰されました。その他、長崎大学から20年及び30年永年勤続者表彰、長崎県学校保健会から永年功労賞、長崎県警察本部から感謝状（2006及び2010）三越医学賞（1969）、日本社会精神医学会優秀論文賞（2014）などを受賞しました。

更に、ボランティア活動として、現職の一般社会福祉法人長崎いのちの電話理事長のほか、精神障害へのアンチスティグマ研究会から発展された「心のバリアフリー研究会」理事、一般社団法人うつ病の予防・治療日本委員会理事長なども経験してきました。

こうした活動が認められて、今回の受章につながったと考えますが、現実にはこういった作業を提供していただいた方の支援なしには達成できないことであり、多くの方々に心から感謝の意を表したいと思えます。誠に有り難うございました。

特別寄稿

～公開講演で語り足りなかったこと～



『存命の喜び』

奈良大学文学部教授

上野 誠

牛を売る者あり

『徒然草』に次のような文章があります。

「牛を売ろうとする人がいた。対して、牛を買おうとする人は、翌日、代金を支払って、牛を買い取ろうといった。ところが、その夜のうちに牛は死んでしまった。すなわち、この場合、牛を買おうとする人には、利益があったことになり、牛を売ろうとした人は、損をしたことになる」と語る人がいた。(拙訳)

牛の売り買いといっても、今の人にはピンと来ませんよね。これは耕作に使う役牛ですから、牛が何年働いて、田を耕してくれるのかということが大切なんです。ですから、牛を買った翌日に牛が死んでしまえば、買った人は丸々損をしたことになるのです。

人生は博打だといわれる意味も、ここにあるのでしょう。数十年にわたってえいえいと働き続け、やっと得た退職金で、老後のために株を買った人がいました。ところが、買った翌月にその会社が倒産して、株券が紙屑になったという話を、わたしは聞いたことがあります。株を買った人は、買うのを一ヶ月遅らせたなら、悲劇は免れたのに、と地団駄を踏んだそうです。

ここから学ぶべき点は、予測というもの難しいということくらいでしょうか。話を『徒然草』に戻すと、牛を翌日に買い取り、代金を払うことにしておいて、よかったですね。牛を買おうとしていた人にとっては、ほんとうにラッキーでした。

屁理屈か、人生の真実か、それが問題だ

ここまでの、普通の人々の普通の考え方です。しかし、『徒然草』を書いた吉田兼好という人は、普通の人じゃありません。『徒然草』がおもしろいのは、普通じゃないからです。兼好はときには巧妙な論理で、ときには詭弁や屁理屈とも思える論理で、人生の真実を炙り出してくれます。話の続きはこうです。ただし、後半は、大胆に意識しています。その点は、ご注意ください。

この話を聞いて、そばにいた人は、こういった。「牛の持ち主は、ほんとうに損をしたというけれど、それと同時に、大きな利益を得たはずだ。その理由はといえば、生きとし生ける者は、死というものが自分の近くにあるということを知らない。その点では、牛の話のとおりである。ならば、人とても同じこと。予想だにできぬことではあったが、牛は死んでしまった。一方同じことながらはからずも牛の持ち主の方はといえば、今生きている。一日の命というものの価値たるや、億万の金よりも重いものだ。してみれば、牛の代金など、ガチョウの羽よりも軽いもの。そう考えれば、一日の命という億万の金を得て、

それに比べれば一銭の値打ちしかない牛の代金を取り損なった人に、かりにも損があったなどとはいえない」と。すると、そこにいた一同は、嘲って「そんな屁理屈をいうなら、牛の持ち主のみならず、今生きている者はことごとく億万の金を得ていることになってしまうではないか?」と言った。(拙訳) 命の重さは、地球より重いという人がいますが、買おうとした牛よりも、一日でも長生きができたとすれば、それは億万の金を得たのと同じこと。したがって、牛を売ろうとした人に損はないというのです。まことに、不思議なことをいうもんです。

人皆生を楽しまざるは、死を恐れざる故なり

このあと、その理由が、生死をめぐる哲学論として展開されます。つまり、「牛を売る者」の話は、一つの例話だったのです。

そこで、先ほどの人物は、またこういった。「そういう論理を普遍化すれば、人間というものには、死を憎むのならば、億万の金よりも重い生を愛すべきである、という人生の大原則のごときものが存在することになる。この生きて今あるという喜びを、日々楽しまなくて何とする! 対して、愚かなる人たちは、この生きて今あることの楽しさを忘れ、無駄骨を折って、金だの名誉だの、二の次三の次の楽しみの方に心を向けて、生きて今あるという億万の値を持つ宝が存在しているということを忘却してしまっているのだ。そして、一夜にして消え去る危うい宝ばかりを求めている。それでは、生きる意味を問い、それに答えるといった志を持った生き方を貫いてゆくことはできない。生ある間に、生きて今あることの喜びを楽しむことなく、死に際して死を恐れるというのなら、死を憎み生を愛すべしという人生の大原則が成り立たないではないか。人が皆、生きて今あるという喜びを楽しまないのは、死というものを恐れていないからである。いや、死というものを恐れていないのではなくて、死というものが自らの近くにあるということを知っているからである。ただ、もしも、そういう生き方ではなくして、生死のことなどもう問題にもしないという生き方に徹することができるというのなら、それはそれで本物かもしれない。」と言うと、まわりにいた人びとは、ますますこの人のことを嘲った。(拙訳)

この不思議な議論を展開する人は、兼好ないしは兼好の分身であると考えられています。なるほど、そうかもしれません。兼好は、この奇妙な議論が、世間には受け入れられないということを知っていたのではないのでしょうか。だから、語り手に同意しない聞き手を登場させて反論させたり、嘲りの言葉を吐かしたりしているのです。

人、死を憎まば、生を愛すべし。存命の喜び、日々楽しまざらんや

わたしは、原文にある「存命の喜び」を「生きて今ある喜び」と訳出しました。この文章の要点を一言でいうと、生きて今ある喜びを知らぬヤツは、愚か者だ

ということです。ただし、じゃあ「存命の喜び」って、具体的にはいったい何だい？ と聞かれると困ってしまうのです。まあ、試験の模範解答としては、生き生きと生きる喜びというのでしょうか、ほんとうの答えにはなってませんよね。それでも、疑問は残ります。そこで、多くの国文学者は、名誉やお金などの虚飾によらない人生の喜びなどということに補って考えるのです。わたしも、そう補って、訳文を作りました。でも、名誉やお金で、喜びを感じるということもあるはず。わたしは、何ものにもとらわれない清らかな心をもって真理を探究する研究者ですが、名誉やお金も大好きです。この本では、名誉やお金など虚飾だといっていますが、ひそかにこの本の印税を計算して、「売れたらいいなあー」と取らぬ狸の皮算用をしていますし、助教授のときは、早く教授になって、威張りたいと思っていました。

とはいうものの、わたしとて、小さいながらも、無垢の心の志がないわけではない。すぐれた論文を書いて、少しでも研究を前進させることができたとも考えていますし、授業がうまくゆくとこれまた嬉しいもんです。だから、授業の準備にもそれなりに気を遣っています。ことに、試験の答案用紙の最後に「先生の授業で、はじめて学ぶ喜びを知りました」なんて書かれた日には、もう、嘘だとわかっているけど無邪気に喜びます。焼肉をおごってもいいくらいです。

しかし、お前にとっていったい何が「存命の喜び」かと、聞かれると、答えに窮してしまいます。わたしにとっての至福のときっていつだろう？ 一切れ数万円の松阪牛のすき焼きをいただいたこともあります。食べた後、少し淋しい気分になりました。また、たまにご接待で、夜の世界では著名なクラブで、美人のホステスさんとお酒をいただく機会もありますが、気が付くとこちらの方が気疲れしていることもあります。「存命の喜び」って、いったいなんだろう、考え込んでしまいます。

【生きて今ある喜び】って何よ？

いろいろ考えても結論は出ないので、逆にこう考えることにしましょうと思います。「ああー、生きていてよかったと実感できた瞬間」に「存命の喜び」というものは生まれるのである、と。だから、どの事柄が「存命の喜び」かどうかということについては、特定などできない。ある人にとっては「飲む」「打つ」「買う」で得られる喜びであり、ある人にとっては「読書」や「仕事」で得られる喜びである……だったら、「お金」や「名誉」だって、その一つになり得るはず。です。

【至福の瞬間に出逢える日を夢見て生きる】

ただし、ややお説教めいたことをいわせてもらうと、お金や物、さらには与えられた快樂によって得られる喜びには限界があると思います。一億する家に住んでいる人が、三百万円の家に住んでいる人より、幸せであるという保証などどこにもありません。価格はどうあれ、家を努力して手に入れたときの喜びのほうが大きいでしょう。要は、心の底から生きていてよかった

と実感できるかどうかです。人間とは、そんな至福の瞬間にいつか出逢える日を夢見て、残りの人生の時間を生きている動物なのだ、と思います。これもよくいわれることですが、人間は夢みる力によって生かされている淋しがり屋の動物なのです。

【偶然と必然と】

もう、賢明な聴衆のみなさんにはおわかりでしょう。わたしがこの講演で、「今と自分が大切なのであって、古典や過去が大切なのではない」「学んでも自分で考えないと、学んだ意味がない」「だから言葉の背後にある心をひとりひとりが想像することが大切だ」と繰り返し述べて力説する理由が。

この講演で申し述べたような体験をしたからこそ、以上のような考え方をするようになったのです。お陰で今でも、わたしは『徒然草』の「牛を売る者あり」の文章のことを思い出すと、「存命の喜び」を感じるものが、直近にあったかどうか、これから未来に起こり得るか、そのときのために日々の努力を怠っていないか、あれやこれやと考え込んでしまいます。それがかっこつけていうと、「古典とは、今を映す鏡」ということになるんです。

【つながって、響きあって、広がってゆく】

わたしは、これまで、『徒然草』九十三段の出逢いについて語ってきました。学んでも、何も感じなかった言葉が、ある偶然をきっかけに、自分にとって大切な言葉となった過程を、思い出話で語った次第です。それは、わたしにとって一つの喜びでした。頭のなかで、知識や思いが繋がって、それが響きあって、広がってゆく。急に、お説教臭くなりますが、それこそ学ぶ醍醐味だ、と思います。

ところで、わたしが研究において専門としているのは、『万葉集』の研究です。その『万葉集』のなかにも、兼好の考え方につながる考え方があります。大伴旅人（おおとものたびと）の「酒を讚（ほ）むる歌十三首」のうちの一首です。まず、大胆な意識で示してみます。

生きとし生ける者は――

ついには死を迎える

ならば、この世にいる間は……

楽しく生きなきゃー、ソン！（巻三の三四九、拙訳）
「生ける者 遂にも死ぬる ものにあれば この世にある間は 楽しくをあらな」（書き下し文）を、このように訳してみました。一般には「生きている者は、いずれは死ぬと決まっている。だからこの世にある間は、楽しむべきだ」と訳すところです。この歌は、酒をほめる歌ですから、もちろん飲酒のたのしみを歌っているのですが、生が有限であればこそ、生をたのしめという思想は、『徒然草』九十三段のそれに近いものです。だから、お酒もたのしもうよということです。一種の現世享楽主義ですね。

夢見る力が、生きる力なのだ。存命の喜びとは、一種の現世享楽主義から生まれる。今、わたしは、そう思っています。本日は、拙いお話をお聞かせしました。ご寛恕を乞いたく存じます。

ご寄付・ご支援ありがとうございます

いのちの電話の運営は、皆様からの浄財によって賄われております。2017 年度上半期 (2017.4/1 ~ 2017.9/30)

に賛助会費や寄付金等を頂戴した皆様のお名前 (敬称略) を記し、感謝の意を表します。又、お名前は省略しますが物品寄付も沢山頂戴しました。ありがとうございます。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

賛助会費

(821,000 円)

<個人>	青山 周広	穂山富太郎	東 直美	新井 弘子	荒川 明継	井口 元孝	池田 陽子
泉 博正	井石 哲哉	井石八千代	市川 雅夫	井手 保則	稲澤 陽三	稲田 栄司	梅野 一幸
大川理恵子	太田久美子	小中恵理子	小野 靖彦	尾上 重道	小原 玲子	鍵原 恵子	鍵原 行雄
片岡寿美子	片山 仁志	金子 博行	川端 辰長	北島 陽夫	木下 洋子	木村 幹史	楠本 誠人
後藤美佐子	近藤 松美	齋藤 寛	柴田 芳男	陣内恵美子	末吉 征志	鈴木キヨミ	瀬口 卓也
常多 勝巳	都野 弥生	出口 喜男	友納 靖史	中上 末明	中富 昌夫	中村 逸雄	中村 尚達
野口 純江	萩原 康雄	橋場 邦武	馬場 昭代	林 邦昭	林 敏明	原口 俊哲	平坂 治子
福田 雅文	藤澤久美子	藤野 了	藤本小枝子	堀田 征子	本田 圭助	本田 隆一	牧 千尋
牧 俊夫	蒔田 豊	益田 耕作	町田トシエ	松元 定次	松本 汎人	松本眞理子	峰松 弘子
三矢 泰彦	宮田 進	宮本 孝治	本川 正和	森 良昭	山田 和子	湯口 隆司	横田智佳子
吉田 省三	吉田 晴久	渡部 克子	匿名 1 名				

- <法人・団体> * 医療法人 秋山眼科クリニック * 社会医療法人春回会 井上病院 * 延命寺
 * 有限会社 オーケー薬局 * 学校法人 活水学院 * 医療法人 川原内科クリニック
 * 九州北部税理士会長崎支部 * 九州印刷株式会社 * 光源寺 * 光洋石油株式会社 * 崎永海運株式会社
 * 常在寺 * 瑞光寺 * ダイエー工業株式会社 * 宗教法人 大光寺 * 医療法人 たかすぎ内科クリニック
 * 株式会社 大通エージェンシー * 株式会社 チョープロ * 医療法人 稲仁会 * 長崎電建工業株式会社
 * 日光タクシー株式会社 * 医療法人 橋口整形外科医院 * 税理士法人 波多野アンドパートナーズ会計事務所
 * 平坂製薬株式会社 * 弁護士法人 ふくごき法律事務所 * 株式会社 文明堂総本店
 * 司法書士法人 吉田合同事務所 * 株式会社 吉本ハイテック

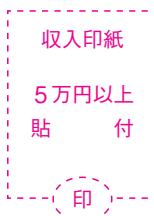
寄付金

(1,189,600 円)

<個人>	荒木 迪子	粟屋 曠	石橋 俊秀	井之上早苗	大石 政江	大西由紀子	大脇 京子
奥村 典男	押渕 礼子	落 淳子	金沢寿栄子	川口 幸義	川越 孝洋	木下 洋子	清原 龍夫
澤田 修	鹿谷 隆朗	清水 新二	下山 高生	下山 時生	小岱メグミ	進藤 義則	砂川 久子
高橋 裕次	田中 直孝	田村 繁幸	津山千寿子	遠山 杏子	鳥巢 維文	中澤 和嘉	中田 慶子
長田 由美	中根 允文	中村 尚志	中村 政子	鳴海 幸代	野島 一彦	馬場 昭代	原田 知行

※ シン目で切り取ってご利用ください。
 ※ 払込手数料のご負担は不用です。

- (ご注意)
- ・この用紙は、機械で処理しますので、口座記号番号及び金額を記入する際は、枠内にはっきりとご記入ください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
 - ・この用紙は、ゆうちょ銀行または郵便局の払込機能付 ATM でもご利用いただけます。
 - ・この払込書をゆうちょ銀行または郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証等を必ずお受け取りください。
 - ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
 - ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。



この場所には、何も記載しないでください。

原田美佐子 平川 厚子 深堀千恵子 藤澤久美子 藤村栄三郎 藤本小枝子 船山 忠弘 古川サキ子
 本多 文子 牧 多津江 松尾みち子 松田 京子 宮崎 和子 宮田 雄吾 ミタリユウイチロウ 村田 輝生
 森 敬子 森 光徳 森 秀樹 山下 末喜 山田 美保 山本 幸子 山脇 進 横田 実
 渡邊 才人 匿名1名

- <法人・団体> * アサヒ法律事務所 * 飯島商事株式会社 * 石丸内科・胃腸科医院
 * 江崎社会保険労務士事務所 * 大坪整形外科 * 大村さくら法律事務所 * 医療法人 こうの眼科医院
 * 一般社団法人 佐世保市医師会 * 佐世保東ロータリークラブ * じゅうばし内科医院
 * 十八銀行本店 総務部 * 昭徳寺 * 白壁外科医院 * 株式会社 信和 * 医療法人 すがさきクリニック
 * 園田司法書士事務所 * 長崎北ロータリークラブ * 長崎キリスト教協議会 * 株式会社 中島工業
 * 中牟田消化器内科クリニック * 株式会社 ニーテックハマナカ * 医療法人 厚生会 虹が丘病院
 * 有限会社 ハーモニー * はざま神経内科・内科医院 * 有限会社 パルハウス * 仁美税理士事務所
 * 医療法人 増田整形外科 * 丸菱テクノ株式会社 * 医療法人 厚生会 道ノ尾病院 * 明練寺
 * 恵の丘長崎原爆ホーム * もりなが協同法律事務所 * やすひウイメンズ・ヘルスクリニック
 * 医療法人 山口内科・循環器内科 * 唯念寺

資金援助ボランティアとして活動を支えて下さい

「長崎いのちの電話」は、相談員をはじめ全てボランティアで運営されており、その活動は寄付金・賛助会費・助成金で賄われています。あなたも“資金援助ボランティア”として「長崎いのちの電話」を支えてくださいませんか。ご協力をよろしくお願いたします。

税制上の優遇措置があります

個人の場合：所得控除・個人県民税控除が受けられます。

法人・団体の場合：損金算入が認められます。

毎年一定の資金援助して下さる方は、賛助会員として登録させていただきます。

★賛助会費

個人会費：1万円・5千円・2千円
 法人会費：5万円・3万円・2万円・1万円

★寄付金 金額は随意です。随時お受けいたします。

ご送金先 郵便振替 01870-3-40716

加入者名「社会福祉法人 長崎いのちの電話」

※下部の払込取扱票を切り取ってご利用いただくと便利です。

●「銀行振込み」をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

事務局 TEL 095-843-4410

払込取扱票

口座記号・番号はお間違えのないよう記入してください。

通常払込料金
加入者負担

02	口座記号										口座番号(右詰で記入)										金額	千	百	十	万	千	百	十	円
	0	1	8	7	0	3	4	0	7	1	6																		
加入者名	*(社福) 長崎いのちの電話																				料金	備考							
通信欄	<input checked="" type="checkbox"/> に✓を入れ、賛助会費または寄付、金額をご指定ください。 <input type="checkbox"/> 賛助会費 個人会費 <input type="checkbox"/> 10,000円 <input type="checkbox"/> 5,000円 <input type="checkbox"/> 2,000円 法人・団体会費 <input type="checkbox"/> 50,000円 <input type="checkbox"/> 30,000円 <input type="checkbox"/> 20,000円 <input type="checkbox"/> 10,000円 <input type="checkbox"/> 寄付 (金額は随意です)																												
依頼人	おなまえ (ご連絡先電話番号 - -)																				日	備考							
	おなまえ																				附								

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	0	1	8	7	0	3	通常払込料金 加入者負担													
						4	0	7	1	6										
加入者名	*(社福) 長崎いのちの電話										金額	千	百	十	万	千	百	十	円	
依頼人	おなまえ										ご依頼人									
											日 附 印									
料金											日 附 印									
											日 附 印									
備考																				

※シシ目で切り取ってご利用ください。
 ※皆様のご支援をお待ち申し上げます。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。
 切り取らないでお出ください。

この受領証は、大切に保管してください。

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)

これより下部には何も記入しないでください。

各票の※印欄は、ご依頼人様においてご記入ください。